

【積丹半島の魅力】 青の半島



【所在地】 北海道神恵内村、岩内町、泊村を中心とした積丹半島全域

【公式HP】 [青の半島 \(kitblue.jp\)](http://kitblue.jp)

【公式FB】 [株式会社キットブルー | Facebook](#)

【公式Instagram】 [株式会社 キットブルー / KIT BLUE\(@kitblue.jp\) • Instagram](#) 写

[真と動画](#)

【ここが魅力！】

「100年後の世代も、幸せに暮らせる積丹半島にしたい。」

青の半島は、積丹半島の未来への想いをコンセプトとし、積丹半島でのサスティナブルな暮らしの実現と積丹半島を「売る仕組み」をつくることを目的とした「地域のブランディング」プロジェクトです。

「地方創生事業」として、神恵内村、岩内町、泊村の3市町村と、株式会社沿海調査エンジニアリング代表取締役の大塚英治氏がタッグを組み、地域商社「株式会社KITBLUE」として2017年10月より取組がスタートしました。



<株式会社KITBLUEの記事>

地域の名産品である「ウニ」、「ナマコ」の商品化から始まり、現在は丸井今井、蔦屋書店、無印良品よりオファーを受け、国内海外への販路を拡大し、「積丹半島の魅力を伝える」活動を展開しています。



<ナマコ商品>



<冬うに>



<丸井今井 YORIAI marketの様子>

株式会社KITBLUE執行役員の大塚英治氏に、これまでのプロジェクトの活動内容や、今後の展開への想いについてお話を伺いました。

プロジェクト開始時より、各町村より求められる結果や姿、大塚氏が考える各市町村の未来の姿について、多くの調整や説明、話し合いを重ね、トライアンドエラーを繰り返し、プロジェクトを進めてきました。

今後青の半島が担う役割として、「地域の意識改革」、「技術の革新」、「ビジネスモデルの確立」、「青の半島、積丹半島のファン作り」、そしてこのプロジェクトを発端とした、「他の地域との横展開の繋がり」の5つを掲げ、新たな活動を計画しています。





<札幌市中央区にある大塚氏のオフィスにて>

積丹半島エリア内12市町村の食材たちをおむすびにしてみたら…??から始まった「Oh! MUSUBI PROJECT」や、積丹半島の食材を贅沢に使用した「hantobentō」プロジェクト等を中心に、積丹半島の魅力発信の取り組みを進めています。

「どうしたら地方の人口を増やすことができるのか。」「地方創生の為に何をしたらよいのか。」という言葉を目にする現在、想いをもって取り組みを開始した青の半島プロジェクト。

その方法は各地域で異なりますが、「自分達も！」と一歩を踏み出すヒントになるのではないかと思います。